

第8章 環境放射能水準調査結果

昭和63年度から、文部科学省からの委託を受け、環境放射能の監視を継続して行っている。平成22年度の調査結果は表5-1、5-2のとおりであり、過去の調査結果と同様の結果であった。

なお、平成23年3月に発生した福島第一原子力発電所の事故を受けて、3月12日から検査態勢を強化している。

平成23年4月～6月に採取した大気降下物及び大気浮遊じんから、ごく微量の人工放射性物質が検出されているが、健康に影響のあるレベルではない。また、大気環境中の空間放射線量率は事故前と事故後で特に変わりがなく、水道水からは人工放射性物質が検出されていない。

表 8-1 空間放射線量率の測定結果

測定年月	モニタリングポスト(nGy/h) 大分市高江		
	最低値	最高値	平均値
平成22年4月	48	63	50
5月	48	68	50
6月	48	67	51
7月	48	73	51
8月	48	64	50
9月	49	85	50
10月	49	60	51
11月	49	60	51
12月	49	69	51
平成23年1月	49	52	50
2月	49	70	51
3月	49	72	50
年間値	48	85	51

備考1 nGy/h:1時間あたりのγ線の吸収エネルギー量

表8-2 環境試料中の放射性物質濃度

試料名	試料数	採取場所	単位	核種名 Cs-137	
大気浮遊じん	4	大分市	mBq/m ³	検出下限値未満	
降下物	12	大分市	MBq/km ²	検出下限値未満	
上水	1	大分市	mBq/L	検出下限値未満	
土壌	(0～5cm)	1	竹田市	Bq/kg・乾土	50
	(5～20cm)	1	竹田市	Bq/kg・乾土	14
精米	1	宇佐市	Bq/kg・精米	検出下限値未満	
野菜類	2	宇佐市	Bq/kg・生	検出下限値未満	
牛乳	1	竹田市	Bq/L	検出下限値未満	

備考1 Bq :一時間あたりの放射性核種の崩壊数